

野球女子、硬式に登場

硬式野球のリトルシニア能代で唯一の女子選手金野蓮(能代南中2年)がレギュラーの一塁手として活躍している。3年生が引退し、メンバーは12人と半分減り、2年生は金野を入れて2人だが、持ち前の明るさと元気の掛け声、男子に負けない気持ちの強さで主将にも選ばれ、チームを引っ張っている。

身長157センチの金野は、この夏から一塁を守り、試合に勝つても負けても人一倍感情を表に出す選手と、大沢勉監督から気持ちの強さと野球への情熱を買われ主将に選ばれた。浅内小時代はスポ少で

リトルシニア能代主将 金野蓮選手(能代南中2年)

スポ少で一緒に汗を流した友人たちは他の部活動に入部したが、金野の野球への思いは強く、父親の洋さんの勧めでリトルシニアの練習を見学に訪れた。積極的な声掛けや全力プレーを繰り返す選手たちを見て、「自分が入りたいチームだ」と入団を決めた。

ソフトボールと野球の違いに加え、男子の先輩たちになじめるかどうかの不安もあったが、「みんな気さくに声を掛けてくれてすぐに溶け込めた」と語る。

大沢監督によると、スポ少から野球を続ける男子でも入団当初は硬式球を怖がる人が多いというが、「野球に取り組み気持ちは人一倍で、試合でもボールを怖がらずにヒットを打てる」と男子顔負けの気持ちの強さを評価している。本人もバットイングに力を入れており、「何番バッターでもヒットを打って、ランナーを進める」と意欲を燃やす。

男子に交じってプレーする金野の心の支えになっているのは、TDKの選手として活躍した洋さんなどの自主練習だ。帰宅後、毎日のように自宅の倉庫でティーバッティングの進捗を考えている。「硬式野球を始めて、家族や友達がプロの選手になるという夢を応援してくれている」と笑顔を見せる。

「人数は少ないが能力の高い選手がそろっている」と(大沢監督)という新チーム。「みんな楽しんで野球をしている。後輩には男子でも負けないう。誰よりも声を出して頑張る」。負けん気の強さと前向きな姿勢で、新チームを盛り上げていく。

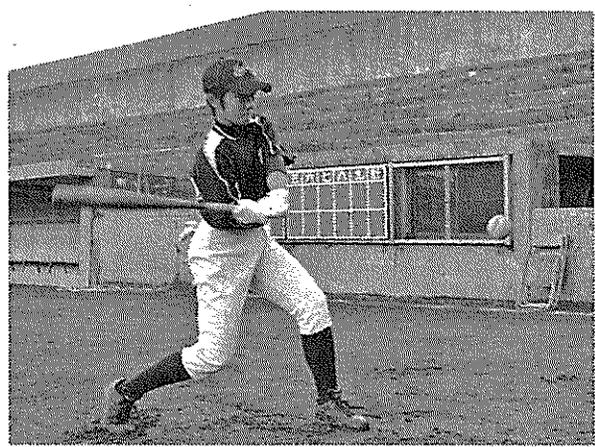
「人数は少ないが能力の高い選手がそろっている」と(大沢監督)という新チーム。「みんな楽しんで野球をしている。後輩には男子でも負けないう。誰よりも声を出して頑張る」。負けん気の強さと前向きな姿勢で、新チームを盛り上げていく。



リトルシニア能代初の女子キャプテンを務める金野

ミスノ旗争奪北東北大会——
能代は2回戦から
少年硬式野球の第21回ミスノ旗争奪北東北大会(主催・日本リトル中学)は、6日から能代山本を

出を狙う。北東北3県から21チームが出場。能代市の能代球場、市民球場、二ツ井球場、八峰町の峰浜野球場、藤里町の清水谷公園野球場、北秋田市の合川球場、森吉球場の7球場でトーナメント戦を繰り返す。中学3年生が引退し、2年生2人、1年生8人、小学6年生2人の12人の新チームとなった能代。来春の全国大会につながる今月下旬の東北新人大会を見据え、練習試合などを通してレベルアップを図ってきた。地元開催の今大会は、今月中旬に控える東北新人大会、下旬の東北大会の前哨戦でもあり、東北各地の強豪チームを相手に実力を発揮し、上位を狙う。日程は6、7、13日の3日間。初日の6日は1、2回戦、2日目の7日は準々決勝と準決勝、最終日の13日は決勝と3位決定戦を行う。能代は6日に二ツ井球場の2回戦(午後1時30分)で北上一八戸東の勝者と対戦する。



女子プロ野球選手を目指して練習に打ち込む

提供：北羽新報